

プロスポーツリーグ「プロ野球」の経営に関する研究

A study on the management of the professional baseball, The professional sports league

1K05B039

指導教員

主査 宮内孝知先生

大野 晃太郎

副査 武藤泰明先生

動機・目的・方法

近年プロ野球は、ドラフトや球団の売却・新規参入など制度や組織について注目が集まった。球界がプロ野球再編問題とまで社会から言われた原因として、リーグ全体での経営方針や理念に問題があったと言える。ここで今一度、プロ野球の組織経営について見直すべきであると考えた。本研究は今後の、プロ野球のリーグマネジメントの方向性を示すことを目的とする。

本研究は、プロ野球のビジネスや球界再編問題に関する参考文献、プロ野球に関連した先行研究を招集して行った。またプロ野球以外の、プロスポーツリーグ「Jリーグ」「MLB」「NHL」、この3つの組織について研究し、プロ野球と比較し考察していった。

1章 プロスポーツリーグ「プロ野球」について

本章では、各球団と親会社の関係、各球団の経営実態や基本的収支構造などを明らかにし、プロスポーツリーグ「プロ野球」をビジネス的観点から考察した。またプロ野球の歴史を遡り、どのような経緯で今日に至るかを概観した。

2章 その他のプロスポーツリーグについて

本章では、プロ野球が抱える問題点・課題点を明確にするため、上記で比較対象として挙げた3つのプロスポーツリーグについて考察した。Jリーグは、各地域に密着しチームを地域文化として定着させようとする基本理念を持ち、また MLB・NFL は各チームの戦力・経済力を均等化するために所得分配制度や徴課金制度、サラリーキャ

プ制度を用いて、リーグ全体で経営していることが明らかになった。一方プロ野球は、地域性に欠ける球団が多く、また戦力の分散化が際立ち、その影響もあり各球団の収入に大きな格差があることがわかった。これらにより、リーグ全体で理念を共有せず、また各球団の経営が均一化されていないプロ野球の問題点・課題点を明確化させた。

3章 プロ野球の現状

本章では、現在プロ野球が抱えている問題点を具体的に考察した。本研究において、数ある問題点の中から「選手の入団・移籍に関する制度（ドラフト、FAなど）」、「リーグ経営の不均等化（読売巨人中心主義）」に焦点を当ててこれらを考察した。その結果、まず各球団にそれぞれ経営を依存させていた球界の経営方法に問題があり、そこから個人の利益を求めるがために本来はリーグ全体で均等なる戦力にするために制度化されたドラフトを悪用し、それが戦力の不均等化を招く一因であることが明確になった。また FA などの、選手の移籍制度にも改善点があることがわかった。

これらの点から、各球団の戦力の分散化を防止し、収支の均一化を図りリーグ全体で均等なるマネジメントを行っていくべきであるという方向性を導き出すことができた。

4章 今後のプロ野球について

本章では、近年のプロ野球の動向（交流戦・クライマックスシリーズの導入、本拠地移転などによ

るフランチャイズの強調化)を考察した。交流戦・クライマックスシリーズは、リーグ全体でゲームを魅力あるものにしようと始まったものである。日本ハムファイターズは、本拠地を移転して地方にチームを根付かせようと試みた。ソフトバンクホークスは、地方市場をターゲットとしてビジネスを成功させている。これら3例は、今後のプロ野球が向かうべき方向性を示す要素として十分であった。これらの要素と1～3章を踏まえた上で、リーグ経営の均等化を図る重要性、球団経営の差別化と均一化、選手の入団・移籍制度の見直し、戦力の均

等化を提言し、これを結論とした。

まとめ

一昔前は、プロ野球の競合対象はJリーグであった。しかし現在は、スポーツの枠に止まらずに「エンターテインメント」と呼べるもの全てが競合対象となっている。それらに対抗するためにはリーグ全体で魅力あるブランドを再構築し、新たな社会的価値を生み出していく必要があり、その中で日本における野球文化を更に発展させていくべきであると考えた。